薬物乱用とは?

薬物乱用とは、医薬品を本来の目的から逸脱した用法や用量あるいは目的のもとに使用すること、医療目的にない薬品を不正に使用することをいいます。もともと医療目的の薬物は、治療や検査のために使われるものです。それを遊びや快感を求めるために使用した場合は、たとえ1回使用しただけでも乱用にあたります。

興奮作用

覚醒剤

コカイン

MDMA

幻覚作用

LSD(紙状)

有機溶剤
(シンナー・トルエン・接着剤など)

マジックマッシュルーム
(きのこ)

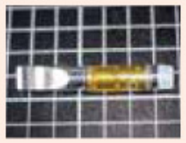
大麻

大麻草

大麻樹脂

乾燥大麻

大麻リキッド



大麻ワックス

違法栽培例

抑制作用

向精神薬
(睡眠剤・抗不安剤など)

あへん系麻薬(ヘロインなど)

(注)医師に診断のもと、適正に使用されているものを除く。

危険ドラッグ

(全ての作用が起こり得る)

リキッド系

パウダー系

ハーブ系

お香

※2019年国連麻薬委員会では、これまでの10年間の取組みを振返り、その実施の加速化を確認するとともに、2029年に薬物政策のすべてのコミットメントをレビューすることを採択しました。

公益財団法人
麻薬・覚せい剤乱用防止センター
〒107-0052 東京都港区赤坂2-4-1 白亜ビル9階
TEL. 03(5544)8436 FAX. 03(5544)8473
http://www.dapc.or.jp

Yes to life, No to drugs.

麻薬・覚醒剤・大麻・危険ドラッグ等
薬物の乱用をなくそう

協力:東京都

ダメ。ゼッタイ。
愛する自分を大切に

(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター
Drug Abuse Prevention Center

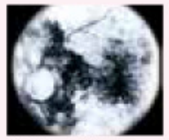
薬物乱用は心と身体を壊してしまう。だから「ダメ。ゼッタイ。」

身体への影響

脳が萎縮している

脳

大脳の神経細胞の死滅による脳の萎縮
（意識障害、記憶力低下、幻覚、妄想）



眼底出血が起こる

眼

視神経がおかされる、眼底出血がおこる
（視力低下、失明）

歯

歯がぼろぼろになる

粘膜がおかされている。急性気管支炎で死亡することもある

気管支・肺

粘膜がおかされる
（せきが出る）

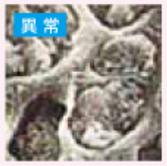
心臓

血圧上昇

細胞の一部が死んでいる

肝臓

細胞の一部が死ぬ
（食欲不振、黄疸、腹水）



胃粘膜がおかされ出血している

食道・胃

胃粘膜がおかされ、出血する
（胃痛、吐き気、嘔吐）

細胞の一部が死んでいる

腎臓

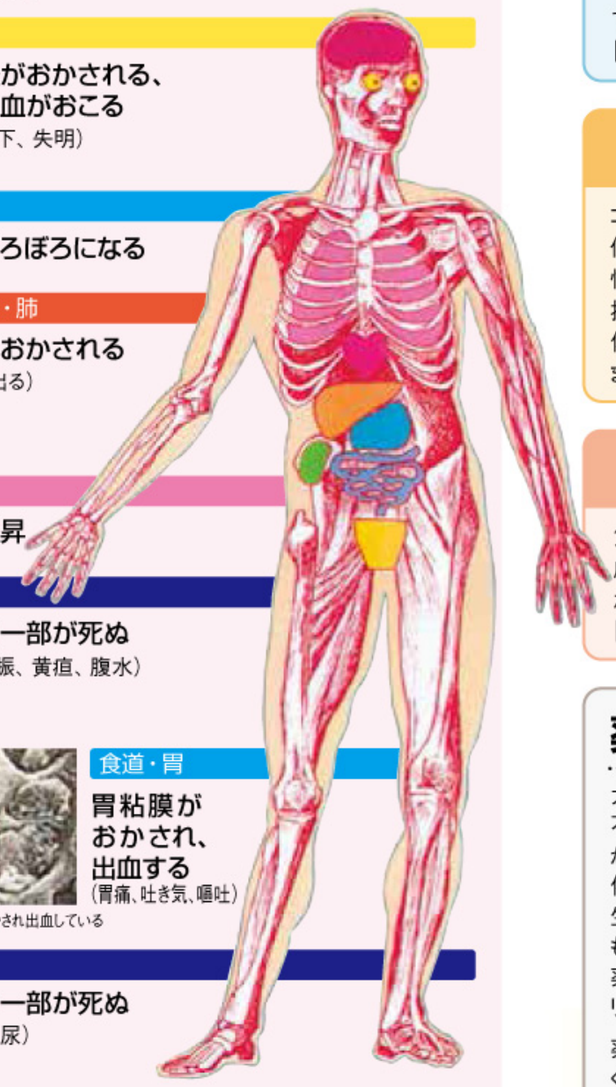
細胞の一部が死ぬ
（タンパク尿）

骨髄

赤血球がつくられなくなる（貧血）

生殖器

萎縮（生理不順、生殖能力の低下）



覚醒剤

麻黄（まおう）という植物から抽出された成分を科学的に合成した物質です。主に白い粉末や無色透明の結晶の形状で流通しています。乱用すると一時的に疲労や眠気を感じにくくなり精神が高揚するようになりますが、効果が切れると、激しい脱力感や倦怠感、精神錯乱に襲われます。乱用すると、急性中毒や全身けいれんを引き起こし、脳出血や心臓発作により死亡する場合もあります。依存性が強く、幻覚、妄想が現れ、精神に異常をきたし、時には錯乱状態になって暴行や殺人を誘発することがあります。「シャブ」「エス」「スピード」「アイス」「氷」などと呼ばれ取引されています。

コカイン

コカの葉から作られた強力な中毒性を持つ精神刺激薬です。医療目的のために使うこと以外は法律で規制されています。通常は無色もしくは白い粉、又は結晶性粉末の状態で、覚醒剤と同様に神経を興奮させる作用があります。効果の持続期間が短く依存性も非常に強力で何度も乱用するようになり、精神障害や体中を虫が這いまわる感覚を引き起こしたり、呼吸困難により死亡することもあります。「コーク」「スノー」「クラック」などと呼ばれ取引されています。

MDMA

気分や知覚に変化をもたらす覚醒剤や幻覚剤に似た化学的性質を持った合成麻薬です。乱用すると高揚感を高める一方、幻覚や妄想、記憶障害を伴った精神障害を引き起こし、腎不全、心不全を誘発して死に至る場合もあります。「エクスタシー」ともよばれ、パーティドラッグとして取引されています。

薬物依存とフラッシュバック

大麻や覚醒剤などの薬物を使用すると、繰り返し使いたい、使っていないと不安や不快になるといった症状が出て、その使用が止まらなくなります。これが**薬物依存**です。
依存状態になるとやめようと思っても自分の意志ではやめられなくなり、日常生活に支障をきたし、薬物を手に入れるため犯罪などに手を出してしまう場合もあります。
薬物依存にはクスリが欲しいという欲求が我慢できなくなる精神的依存、クスリがなくなると体に不快な症状が出る身体的依存があります。

薬物は使い続けると身体が慣れてくるため、その効果が当初に比べて効きにくくなる現象が現れます。これを**薬物耐性**と言います。
以前と同じ効果を感じるために多量の薬物が必要になるため薬物依存症になりやすく、結果薬物中毒になって死亡してしまうこともあります。

薬物の乱用をやめても、「薬物が欲しい」という欲求を持ってしまった脳は、元の状態には戻らないといわれています。乱用をやめて治療によって回復しても、何らかのきっかけで薬物使用時の状態が再燃することがあります、これを**フラッシュバック**といいます。

大 麻

乱用される大麻は、麻の一種である大麻草の葉、花穂、茎、種子などから精神に作用する物質を抽出したものです。世界で最も乱用されている薬物で、日本でも増加傾向にあり近年検挙者が3500人を上回るなど急増しています。また検挙者の中心は20代から30代の若者になっており、今後さらに低年齢化し未成年への乱用拡大が危惧されています。
大麻を乱用すると、心拍数の増加、目の充血、知覚過敏になり幻覚や妄想に襲われるようになります。記憶障害や意識障害を伴う中毒性精神病の状態になり、何もやる気のない「無動機症候群」に陥ることもあります。以前は乾燥させた葉や樹脂から煙を吸引するのが主流でしたが、最近は蒸気を吸引するため液体状に加工したリキッドタイプやワックスタイプ、ケーキやクッキー、キャンディーといった食品に混ぜ込んだり、お茶のように煮出しするものなど、大麻成分を摂取するための新しい抽出方法が現れてきています。「ハッパ」「クサ」「チョコ」「野菜」などと呼ばれ取引されています。

危険ドラッグ

危険ドラッグは、覚醒剤や大麻などの規制薬物に似せて合成された化学物質を含んだ薬物で、実際にどれほどの危険性があるのかわからないものです。色や形状も様々で、粉末・液体・乾燥植物など巧妙に偽装され、「お香」「バスソルト」「ハーブ」「アロマ」など、一見すると危険な薬物に見えない名称やパッケージで取引されていますが、売っているほうも中身がわからない恐ろしい薬物です。

向精神薬

向精神薬とは睡眠薬や鎮静剤など脳の中枢神経に影響をおよぼす薬物の総称です。もともとは不眠やイライラなどをなくすため医療用に作られた治療薬ですが、これらも使用目的を間違えれば薬物乱用になります。服用すると飲酒時に似た酩酊状態や気分が高揚するものもあり、危険です。医師や薬剤師から処方されますが、症状を過大申告して多めに入手し、不正に転売する手口が蔓延しています。他の違法薬物に比べ入手しやすいこともあり、ゲートウェイドラッグとして薬物依存につながるため注意が必要です。

薬物依存症を解消する特効薬はありません。強い決意をもって乱用をやめても、ちょっとしたきっかけで薬物への強い欲求につき動かされ、また薬物を使ってしまう人もいます。薬物乱用からの回復には長い時間と本人の自覚、適切な指導と周囲の協力が不可欠です。